

Lobetalを訪ねて

ローベタル

10月ドイツ・ベルリンから約30Km北の町・ローベタル(Lobetal)を訪ねた。

この町は、1905年に牧師・パストゥール・フリードリッヒ・フォン・ボーデルシュヴィング(Pastor Friedrich von Bodelschwingh, 1831-1910)がつくった福祉施設である。ここで、障害者、ハンセン氏病患者、孤児、老人たちが、その生活を支えるスタッフやその家族とともに暮らしている。

町というよりは自然の中の佇まいから村といった方がよいかもしいない。2700人ものが暮らしているとは思えないほど静かで、ゆったりとした時が流れていた。時折、障害者の人に出会ったり、彼らを乗せた農場へ向かう車などが通りすぎて行く。町(施設)には門やまわりを取り囲む塀などといったものは何ひとつない。普通の町へ行くのと同じだ。



木立の中に、工場や教会、住宅、店などがあつた。住宅の近くにレストランのある大きな建物があり、私たちがそこで昼食をとったが、市価の半分以下だった。広いレストランにはいろんな人たちがいて、



障害者、障害者とスタッフたち、研修らしきグループ、私たちのような訪問者など様々、メニューの食事でなく、お弁当持参のグループもいた。こ

こもゆったりと静か。日本に見るような慌ただしさや騒音がないのは何故だろうか？建物の造りだろうか？

町の中央あたりに追悼記念碑があつた。ローベタルにいた人びとが、第二次世界大戦時、ナチス・ドイツの



「T4作戦」(障害者・ユダヤ人を絶滅しようとした計画)の犠牲となつた。その追悼記念碑だ。記念碑を囲んで、ローベタルで働き犠牲となつた医者などの、名前・職業・年齢・亡くなった日付を刻む個々銅板が埋め込まれていた。当時所長であつた牧師・パウル・ゲハルト・ブラウネス(Pastor Paul Braunes)は、ナチに抵抗しこの施設を守つたという。「T4作戦」は、1941年8月にヒットラーの命令で中止になつたが、それは教会の反対が原因とも言われている。

戦後、敗戦国ドイツは連合軍によって分割統治されたが、約1000万人もの人たちが家を失い、占領地からの避難民、伝染病、飢餓で、貧窮を極めていた。そんな中でローベタルは、多くの人たちを受け入れ救済したという。

ベルリンが壁で東西に分断されていた冷戦時代もローベタルは存続し、ローベタルの神経・精神・てんかん専門病院は、専門家や患者たちの間で評判であつた。

(松井和子)

牧師「パウル・ゲハルト・ブラウネス展」が、ベルリンの中心・ポツダム広場近くの Topographi des Terrors で開かれている。

禁煙治療は保険診療の対象です

ニコチン依存を断ち切って、健康な生活を!!

人々のたばこに対する意識が高まり、喫煙率は減る傾向にあります。健康増進、老化の防止など、禁煙のメリットはたくさんあります。あなたとあなたのまわりの方の健康のために、今からでも遅くありません。

治療に必要なニコチンパッチは保険診療で処方されます。詳しくは、当院窓口までお問い合わせ下さい。

当診療所では、**止煙出前講座**を行っています。



・出前講座：(日時等は相談の上)

tel : 058-296-4038
IP tel : 050-5201-5567